



未来を築く新任・若手教員のケアサポート事業開始について

2023年度に精神疾患で休職した公立学校教員が、全国で過去最多の7119人にのぼることが判明しました。私立学校でも例外ではございません。若手教員のケアサポートにより、継続的な勤務及び生徒への質の高い教育が提供でき、学校全体の安定化につながります。我々コミセモ・ジャパンでは、教育に携わる先生方をご支援したい強い思いから「新任・若手教員ケアサポート」事業を開始いたします。

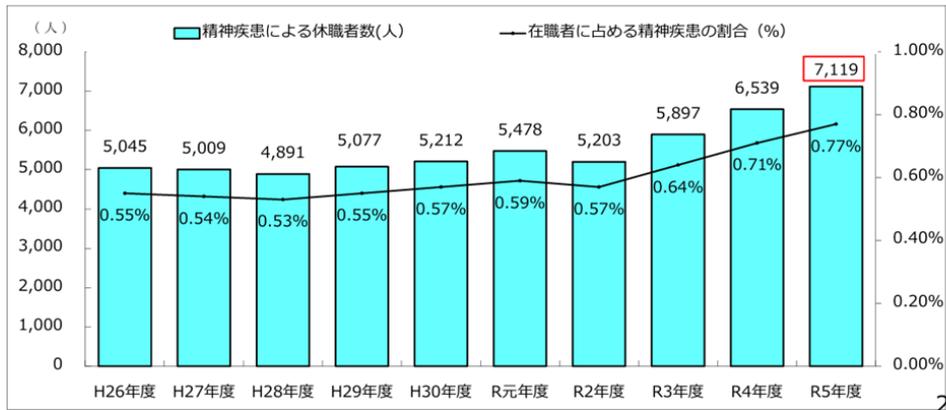
教育職員の精神疾患による病気休職者数（令和5年度）



○教育職員（※）の精神疾患による病気休職者数は、7,119人（全教育職員数の0.77%）で、令和4年度（6,539人）から580人増加し、過去最多。

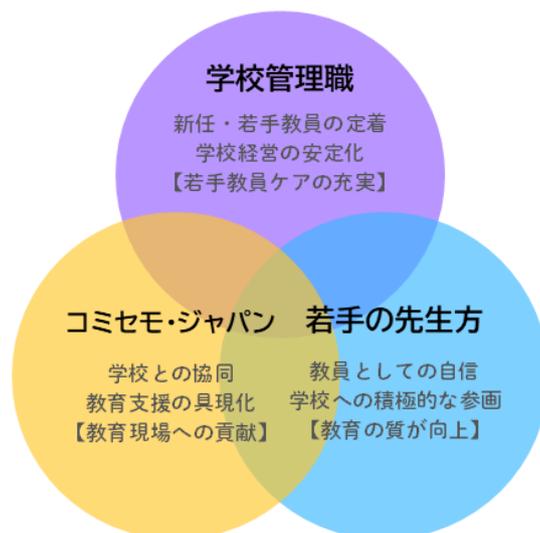
（※）公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校における校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、講師、養護助教諭、実習助手及び寄宿舎指導員（総計920,415人（令和5年5月1日現在））

教育職員の精神疾患による病気休職者数の推移（平成26年度～令和5年度）



参照: 文部科学省「令和5年度公立学校教職員の人事行政状況調査について」より

学校の取り組みとしての若手教員へのサポートをご検討中の場合は、コミセモ・ジャパンだからこそできる、若手教員サポート支援をご選択ください。管理職の先生方など、若手教員のサポートも充実させたいが業務の山積により手が回っていないなどのお悩みはございませんでしょうか。相談員は、公教育での現場経験のある30代～40代の職員（教員免許保持）で行います。教員特有の悩みを把握、理解できているからこそご支援できます。話を聞く、提案をする、ケアする…個人情報も保護しながら、大切な御校の若手教員を守ります。



【定期的な個人面談（月1回～）】

定期的にケア面談を行います。オンラインまたは対面で面談を行い、心の負担を減らすとともに悩みを聞き取ります。ご本人様の意志を大切にしながら、継続的に業務に挑めるように支援いたします。新任・2年目…と年数や状況により個人面談回数などもプランニングいたします。

【カウンセリング（適時予約制）】

定期面談以外にも受け付けます。先生方が自らの意志で面談を希望される場合はご対応いたします。

※心理系の資格ではなく、教員特有の悩みは教員でなければ理解しがたい部分がございます。そのため、相談員は公教育での現場経験のある教員免許を保持した職員が担当いたします。相談員は、教科指導、クラブ指導、担任、主任、校務分掌部長、管理職等の経験がある者のみで構成しております。

※オンライン以外にも御校にお伺いして面談させていただくことも可能でございます。

詳しい事業内容につきましては、ホームページに掲載し皆様にお伝えいたします。何卒よろしくお願い申し上げます。



■ [コミセモ・ジャパン公式ホームページ](#) > 学校教育支援事業 研修支援 > 新任・若手教員ケアサポート

以上

本件に関するお問い合わせ・取材等は
[コミセモ・ジャパンホームページお問い合わせフォーム](#)からお願い申し上げます。

General Incorporated Association KOMISEMO JAPAN